



## ＜総合生殖医療センター＞

### 概要

当院では年間 1,000 件超の分娩と、約 80 件の悪性腫瘍手術と、約 300 の採卵周期を担当しており、産婦人科3大分野とも称される周産期・腫瘍・生殖の全てが充実している総合病院です。これは、患者さんにはもちろん、医師としての成長を望む若手にも魅力的なことです。

産婦人科は、女性を生涯にわたり生殖器やそれに関連する内分泌を中心にケアする診療科です。専門性が重要視される時代ですが、女性を生涯にわたりケアするという大前提が無ければ、良質な高度医療を提供することはできません。この大前提のためには、3大分野が連携しながら専門性を高めていくことが理想なのです。体外受精で生まれてくる子どもが 56 人に 1 人という時代ですが、生殖医療と周産期医療は別々の医療機関で行われていることがほとんどです。当院の産婦人科研修では多様な体外受精の患者さんを出産まで一貫してケアすることができます。この医療の素晴らしさと奥深さを学ぶ貴重な機会となるでしょう。

当院の特長ともいえる生殖医療分野の独立性は、専門性を発展させていく意味でも、妊婦との隔離を望む多数の不妊女性にとっても、総合病院においては必要不可欠なものでした。当院では、1996 年（平成 8 年）に体外受精を開始し 1999 年（平成 11 年）4 月 1 日には不妊センターが産婦人科から組織的に独立しました。さらに 2007 年（平成 19 年）4 月 1 日には総合生殖医療センターへと発展し、同年 9 月には外来も産婦人科と別の階に移転しました。現在、2007 年（平成 19 年）度から 3 年計画で最新の医療機器を購入し、治療プロトコールを刷新しています。また、見学者は国内のみならず海外からも迎えています。

当院の生殖医療は、周産期医療と同じく母子の健康と幸福をひたすら謙虚に追求することをコンセプトにしています。晩婚晩産化の時代となって、卵巣機能の低下、子宮内膜症、子宮筋腫といった加齢の影響が不妊女性の重要テーマとなりました。加齢の影響を受けた女性が妊娠した場合にハイリスク妊娠となることはしばしばです。さらに、子宮内膜症の癌化や、糖尿病・高血圧など内科疾患の合併も、加齢に伴い増加する問題です。このように、不妊女性の「不妊」だけに目を向けず、センターが産婦人科や各診療科との連携を深めることが、当院のような総合病院が率先して取り組む課題となってきました。

不妊治療のもうひとつの問題点は、可能な限り減らさなければならない医原性の多胎妊娠です。多胎妊娠は、母児双方に生命リスクの負荷をかける異常妊娠です。自然でも約 1% に多胎妊娠は生じるので、不妊治療により生じた多胎妊娠から 1% 分を除いた分が医原性といえます。多胎妊娠を減らしながら妊娠率を高く維持することは至難の業ですが、当院は母体搬送例も多

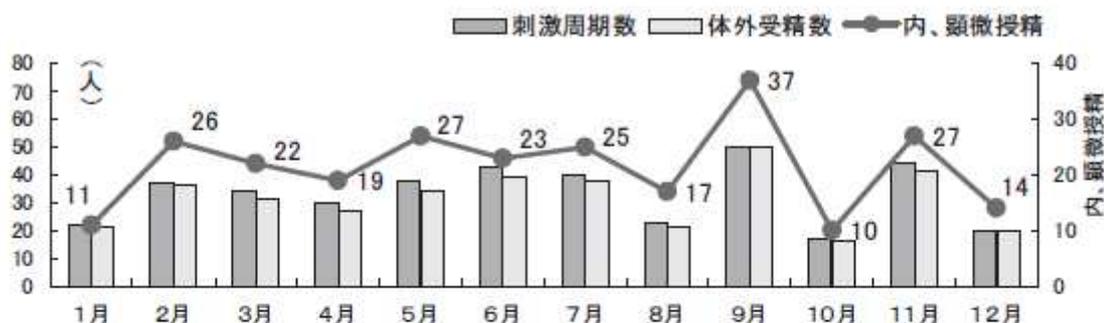
く、多胎妊娠の顛末を病院の中で目の当たりにできる環境に置かれており、当センターでは早くから不妊治療における多胎防止に取り組み実績を重ねてきました。

最後になりましたが、当センターでは臨床や教育のレベルを維持させるだけでなく発展させていくために、臨床に根ざした研究に絶えずチャレンジしていくことも欠かせないと考えています。

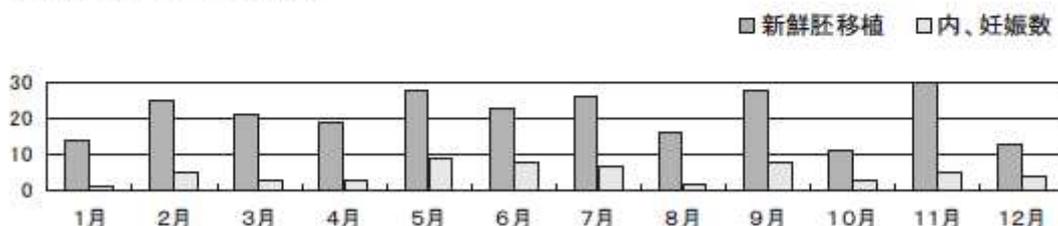
現センター長は、名大において臨床だけでなく教育や研究にも積極的に取り組み多数の若手医師を指導してきました。その中で当院着任約1年前の2005年夏に着想した「全ての受精卵の胚発生を動画で観察評価する」という全く新しいアイデアを当院で実現に至らせ、2007年11月から全症例に適用しています。これは、他と競っている研究ではなくオンリーワンの研究です。動画により良い受精卵を的確に選択する新しい方法が研究開始時より直接患者さんに還元されていることは、2008年日本不妊カウンセリング学会の会長講演で既に紹介しております。また、2010年の第62回日本産科婦人科学会においては、生殖医学部門でトップの評価となる優秀演題賞を受賞することができ、この年に開催された3年に1度の世界不妊学会でも会場いっぱいの観衆から多数の質問や喝采を受けました。このように、当センターで推進している最先端プロジェクトは、新しい視点から胚発育を評価するという学術的価値と、多胎防止と妊娠率向上の両立という臨床現場での難題解決が、同時進行で結実していくことをめざしています。

(安藤 寿夫)

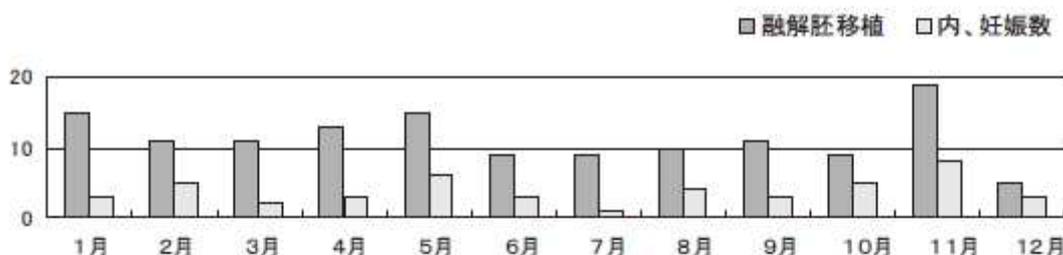
刺激周期数・体外受精数・内、顕微授精



新鮮胚移植人数と妊娠数



融解胚移植人数と妊娠数

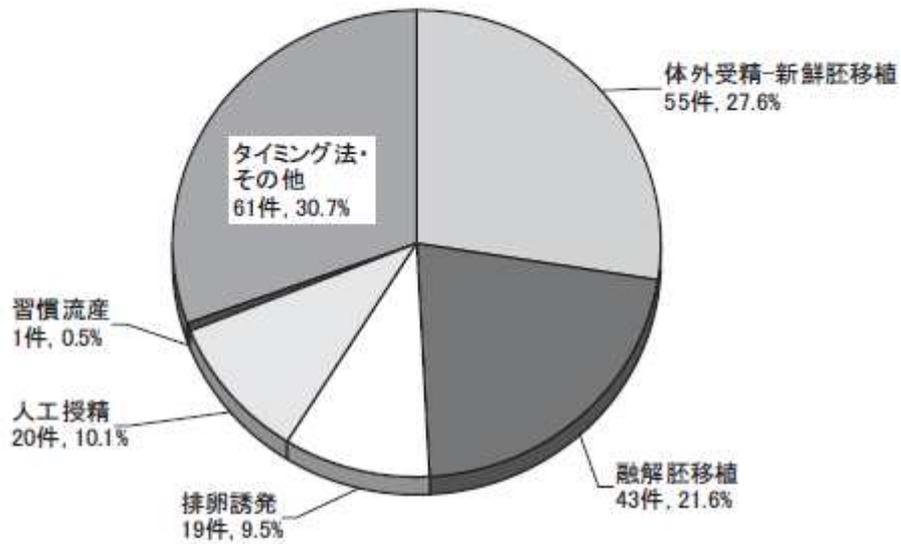


(1) 生殖補助医療の成績

(人)

2011	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	内、妊娠数	融解胚移植	内、妊娠数
1月	22	21	11	14	1	15	3
2月	37	36	26	25	5	11	5
3月	34	31	22	21	3	11	2
4月	30	27	19	19	3	13	3
5月	38	34	27	28	9	15	6
6月	43	39	23	23	8	9	3
7月	40	38	25	26	7	9	1
8月	23	21	17	16	2	10	4
9月	50	50	37	28	8	11	3
10月	17	16	10	11	3	9	5
11月	44	41	27	30	5	19	8
12月	20	20	14	13	4	5	3
計	398	374	258	254	58	137	46
妊娠率					22.8%		33.6%

不妊症妊娠例 199件

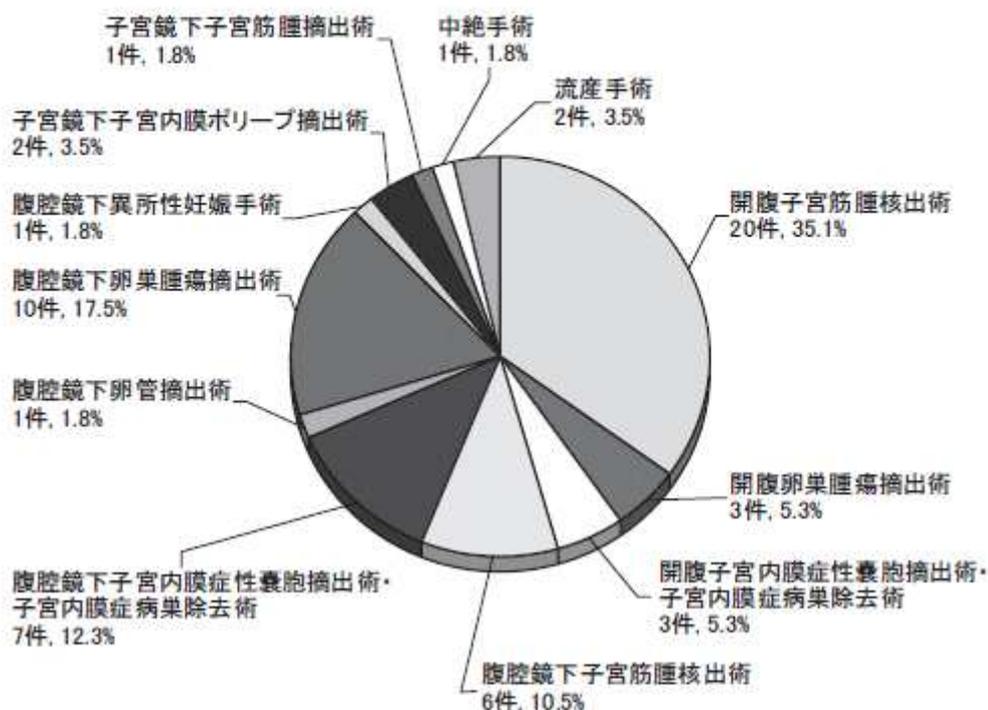


(2) 不妊症妊娠例

(件)

術式名	妊娠例	多胎妊娠例
体外受精-新鮮胚移植	55	0
融解胚移植	43	1
排卵誘発	19	3
人工授精	20	0
習慣流産	1	0
タイミング法・その他	61	3
計 (重複例を除く数)	199 (180)	7 (4)

生殖手術件数 57件



(3) 生殖手術件数 2011 (重複例あり)

(件)

術式名	手術件数
開腹子宮筋腫核出術	20
開腹卵巣腫瘍摘出術	3
開腹子宮内膜症性嚢胞摘出術・子宮内膜症病巣除去術	3
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	6
腹腔鏡下子宮内膜症性嚢胞摘出術・子宮内膜症病巣除去術	7
腹腔鏡下卵管摘出術	1
腹腔鏡下卵巣腫瘍摘出術	10
腹腔鏡下異所性妊娠手術	1
子宮鏡下子宮内膜ポリープ摘出術	2
子宮鏡下子宮筋腫摘出術	1
中絶手術	1
流産手術	2
計	57

## 業績

- 学会・研究会発表
- 座長
- 講演

### 学会・研究会発表

1. 移植胚動画の移植直後の供覧  
安藤寿夫、鈴木範子、高柳武志、皆元裕子、中西芳美、福中智子、岡田けい子、  
若原靖典  
第 10 回日本不妊カウンセリング学会(東京)2011.6.3
2. 当院での生殖医療における子宮頸管カニューレション困難例に対する工夫  
安藤寿夫、山口恭平、浅井千尋、高橋明日香、花田光紗、廣渡英紀、芳川修久、  
寺西佳枝、諸井博明、若原靖典  
平成 23 年度日本生殖医学会中部支部学術集会(岐阜)2011.6.18
3. 胚移植直後に胚培養士が行う移植胚動画の供覧とアンケート  
高柳武志、皆元裕子、鈴木範子、安藤寿夫  
平成 23 年度日本生殖医学会中部支部学術集会(岐阜)2011.6.18
4. 生殖医療における子宮頸管カニューレション困難例への対応  
廣渡英紀、安藤寿夫、山口恭平、浅井千尋、高橋明日香、花田光紗、芳川修久、  
向 麻利、横田夏子、寺西佳枝、諸井博明、矢野有貴、高橋典子、岡田真由美、  
若原靖典、河井通泰  
第 93 回 愛知産科婦人科学会学術集会(名古屋)2011.7.2
5. 第1胚分割異常の発生頻度過少は Pregnancy loss の危険因子である  
安藤寿夫、廣渡英紀、芳川修久、向 麻利、諸井博明、寺西佳枝、横田夏子、  
矢野有貴、高橋典子、岡田真由美、若原靖典、河井通泰  
第 63 回日本産科婦人科学会(大阪)2011.8.29～31
6. タイムラプスインキュベーターはART反復不成功に効果的か  
芳川修久、安藤寿夫、廣渡英紀、向 麻利、諸井博明、横田夏子、寺西佳枝、  
矢野有貴、高橋典子、岡田真由美、若原靖典、河井通泰  
第 63 回日本産科婦人科学会(大阪)2011.8.29～31

7. New protocol of frozenthaw elective single blastocyst transfer cycle using multiplex time-lapse cinematography.  
Hisao Ando, Noriko Suzuki, Takeshi Takayanagi  
67th American Society for Reproductive Medicine (ASRM) Annual Meeting (Orlando, Florida, USA) 2011.5.11 10.15~19
8. 凍結融解胚移植における LAH の有効性の検討  
高柳武志、鈴木範子、田中規雄、安藤寿夫  
第 50 回中部医学検査学会(名古屋) 2011.10.22~23
9. 顕微鏡内蔵型インキュベーターで胚発生をタイムラプス観察した一卵性双胎妊娠 5 例  
寺西佳枝、浅井千尋、高橋明日香、山口恭平、吉田光紗、廣渡芙紀、芳川修久、諸井博明、高柳武志、皆元裕子、鈴木範子、安藤寿夫  
第 56 回日本生殖医学会(横浜) 2011.12.8~9
10. 顕微鏡内蔵型インキュベーターで観察された第 1 胚分割不良胚が通常観察で良好胚なら凍結する意義があるか？  
浅井千尋、高橋明日香、山口恭平、吉田光紗、廣渡芙紀、芳川修久、諸井博明、寺西佳枝、皆元裕子、高柳武志、鈴木範子、安藤寿夫  
第 56 回日本生殖医学会(横浜) 2011.12.8~9
11. LAH (laser assisted hatching) による 80° もしくは 120° 透明帯菲薄化処理の妊娠率への影響  
高柳武志、皆元裕子、鈴木範子、安藤寿夫  
第 56 回日本生殖医学会(横浜) 2011.12.8~9
12. 移植胚タイムラプス動画供覧は患者のこころを癒すか？  
安藤寿夫、高柳武志、皆元裕子、鈴木範子  
第 56 回日本生殖医学会(横浜) 2011.12.8~9
13. 当院 15 年間の採卵症例の変遷  
高橋明日香、浅井千尋、山口恭平、吉田光紗、廣渡芙紀、芳川修久、諸井博明、寺西佳枝、皆元裕子、高柳武志、鈴木範子、安藤寿夫  
第 56 回日本生殖医学会(横浜) 2011.12.8~9

## 座長

1. 一般講演  
安藤寿夫  
ルナベル発売記念講演会(名古屋)2011.2.5
2. 当番世話人  
安藤寿夫  
第7回東海ARTカンファレンス(名古屋)2011.3.13
3. 特別講演「月経困難症に対する新しい低用量エストロプロゲスチン療法」  
安藤寿夫  
愛知県産婦人科医会第7回学術研修会(豊橋)2011.3.19
4. ワークショップ「大災害と生殖医療－東北地方からの報告」  
安藤寿夫  
第 56 回日本生殖医学会(横浜)2011.12.8～9

## 講演

1. 自己注射だからできる卵巣刺激の工夫  
安藤寿夫  
メルクセロノ東京本社社内講演(東京)2011.10.11

